

氏 名：三谷 千代子  
学位の種類：博士（看護学）  
学位記番号：甲第 189 号  
学位授与年月日：2020 年 3 月 10 日  
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当  
論文審査委員：主査 萱間 真美（聖路加国際大学教授）  
副査 吉田 千文（聖路加国際大学教授）  
副査 小山田 恭子（聖路加国際大学教授）  
副査 長谷川 久巳（虎の門病院看護部次長）

論文題目：「看護師長の対人支援力向上のためのプログラム」の実装と評価

#### 博士論文審査結果

本研究では、都内の A 急性期病院の心身の不調を理由に離職意思を持つ看護師が増加しているという課題に取り組むために、部下の成長に係る看護師長の対人支援力の向上をめざし、「看護師長の対人支援力向上プログラム」を実装、評価した。

A 病院の看護師長を対象に 3 か月間、Kolb の経験学習モデルを基盤に、理論・方法を学習した後、自己学習でスタッフ面接(経験)を実践し、集合研修(勤務終了後 1 時間)でのグループワークで(省察・概念化)を繰り返す教育プログラム（全 3 回）を実施した。プログラム参加者は 6 名で看護師長経験年数は平均 4.8 年であった。看護師長の支援力は研修前後に「対人関係理解」コンピテンシー、特発性自己効力感尺度、および多次元共感性尺度改訂版で評価した。「対人関係理解」コンピテンシーは変化がなく、対人支援に関する自信と共感性はスコアが向上した。採択率、実行可能性、適切性、受容性、忠実性はいずれも高かった。

審査では、プログラムの基盤となるエビデンスの探索と位置づけを十分にすること、研究者が介入と評価を実施していることの影響可能性を明記すること、教育プログラムの定着のために、看護部の研修全体における位置づけと対象、目的を整理する必要があること、その他、評価のための統計的手法を再度確認することが指摘された。

論文修正のプロセスでは、QI サイクルの詳細と評価の詳細を列挙するだけでなく、プログラムの焦点を絞り、それに対応した評価指標を選択して示すことに取り組み、プロジェクトの目的に適合したストーリーが明確になった。また、研修を今後継続的に実施していくため、A 病院における看護師への教育プログラムの全体像を整理し、看護師の組織役割遂行能力を支援する教育プログラムとしての位置付けを提言した。

以上により、本論文は、本学学位規定第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与す

ることに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。